

令和元年度 第1回吹田市ごみ減量再資源化推進会議 議事要旨

1 日 時

令和元年8月30日（金）午後2時00分から午後3時50分まで

2 場 所

吹田市役所 低層棟3階 研修室

3 出席委員

会長 市民団体6名 事業者13名 行政1名 計21名

4 概要

(1) 吹田市ごみ減量再資源化推進会議設置規程の改正について

[資料1-1](#)、[資料1-2](#)について事務局から報告。

(2) 吹田市取組について

[資料2-1](#)、[資料2-2](#)、[資料2-3](#)、[資料2-4](#)、[資料2-5](#)について事務局から説明。

- ・行政が本気でレジ袋の削減を進めたいのであれば、事業者のレジ袋の在庫を確認して、在庫の少なくなった事業者に働きかける方が良い。
- ・ストローよりもペットボトルの方が大量に廃棄されているため、ペットボトルの削減に注力してはどうか。

(3) 食品ロスに関する今後の取組について

[資料3-1](#)、[資料3-2](#)、[資料3-3](#)について事務局から説明。

[資料3-4](#)についてアジェンダ21すいたから説明。

[資料3-5](#)について（公財）千里リサイクルプラザ市民研究所から説明。

- ・行政には、消費期限と賞味期限の違い等について市民周知をしっかりとしてほしい。
- ・賞味期限が近くなった食品の回収期日の見直しや、来店者に対する商品の手前取りの推奨をしている。また、フードドライブを実施し、地域に還元するために、協定を結んでいる社会福祉協議会へ食品を提供している。その他に、自社の食品工場で出た食品廃棄物は家畜の飼料や工場内で使用する電気・ガスに再利用している。
- ・商品を製造する際に出た規格外商品は、原料に戻してもう一度商品にしている。
- ・消費期限は消費者の保存方法によって左右されるところがある。消費者には食品表示を読んでほしい。
- ・売れ残った食品は家畜の飼料等にしている。一部の店舗では、食品廃棄物をメタンガスにして、残渣を肥料にしている。
- ・食品ロスを今年度のテーマとして、学習会を実施したり、広報誌を発行したりしている。また、フードバンクへ見学に行き、勉強したい。

- ・イベントでブースを出店し、食品ロス削減に関するクイズをした。
- ・食品ロスの問題については、一般市民の認知が低いため、啓発が必要である。
- ・一般市民に食品ロスに関するアンケートを取ったが、90%程度の人が賞味期限と消費期限の違いを理解しており、賞味期限が近くなった商品を割引すれば購入し、当日食べるものについては当日消費期限が切れるような割引されている商品を購入すると回答した。
- ・事業者は食品ロスを出したくないが、食中毒が怖いため、消費者が食品の取り扱いをどれだけ理解しているかが食品ロスを削減するうえで重要である。
- ・防災用の食品の期限が切れて捨てられることがあると思うので、ローリングストック等の周知をしてはどうか。
- ・今後の取組について、何か意見があれば事務局まで提出してほしい。

(4) その他

資料4について事務局から説明。